

Title	小学校 5・6 年生の CLIL 実践：社会と英語の連携
Author(s)	藤原, 真知子 相羽, 千州子
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.25No.3, 2016.3 :18-19
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5760
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

小学校5・6年生のCLIL実践 —社会と英語の連携—

藤原 真知子 ・ 相羽 千州子

はじめに

CLIL（内容言語統合型学習）の特徴は、学習者が英語を使って考え、他の人と意味のあるやりとりをすることにより、内容と言語の知識を増やし、思考力を高めることにあるとされる（笹島、2011）。欧州では、教科担当の教師が英語で行うCLIL授業がカリキュラムに組み込まれるケースが増えているという。しかし日本のCLIL授業の多くは、これと若干趣を異にし、英語教育の中で語学の教師が英語と日本語の両方を使って行う方が導入しやすいとされる（池田、2013）。

小学校では、平成23年度より5・6年生の外国語（英語）活動が必修となった。年間35時間と限られた外国語活動の中であっても、CLILに取り組むことは十分可能である。むしろ、時間数が限られているからこそ、他教科で既に学んだ内容を活用したい。ここで紹介するのは、社会科と連携したCLILである。

日本の国土と農産物のCLILでは、英語を使って方角、農産物、名勝などを学ばせ、日本列島が海に囲まれ、8地方47都道府県で成ることを確認する。日本の国土に親しみを持ち、海外の人に日本を紹介する素地を養うのがねらいである。

学習の手順

1. 世界地図と日本地図を用意する。

児童は、方位磁石（コンパス）で、N↑S↓E→W←を知っている。NはNorth, SはSouth, EはEast, WはWestの略であることを教える。

N for north, S for south, E for east, W for west

ヨーロッパやアメリカの地図を見せ、違いを発見させる。日本が地図の右端にあり、Far East、極東とよばれていることも伝える。オーストラリアの地図には、上、下が逆になっているものもあり、どの国も自国が中心になっていることを発見させる。

2. 日本の位置、地方、都道府県の確認

日本は太平洋と大西洋に囲まれ、8つの地方と47都道府県がある。それぞれの名前をはっきりと言い、位置を確認する。教師は、地図を指しながら、リズムによって地方名、県名を1つずつ言い、児童はくり返す。

3. 応答練習

都道府県に番号を入れた地図を用意し、指差して練習する。

T: What's number 1? Ss: Hokkaido.

T: What's this prefecture? Ss: It's _____.

はじめは教師が質問し、児童に答えさせる。慣れてきたら児童同士で練習する。

4. 質問の表現を覚え、クイズに答える。

1) North, South, East, Westを使った「～の北・南・東・西」という言い方を学ぶ。

T: Where is Akita?

Ss: (It's) South of Aomori./ West of Iwate./ East of Yamagata.

T: Where is Fukushima?

Ss: (It's) North of Ibaraki.

2) 「～で有名」という言い方 (famous for...) を教えて質問する。写真やポスターを活用すると楽しくできる。

T: What is Aomori famous for? Ss: Apples.

5. 'This land is your land'¹⁾の替え歌で'Japanese Land'を歌う。

以下の1)～3)はみんなで歌を楽しみ、4)、5)はグループで協力して歌詞を完成させて発表させる。

1) This land is your land,

This land is my land,

From Hokkaido to Okinawa,
From Pacific Ocean to the sea of Japan,
This land was made for you and me.

2) (Tohoku food version)

Go to Aomori, eat apples,
Go to Yamagata, eat cherries,
Go to Fukushima, eat peaches,
This land was made for you and me.

3) (Sightseeing version)

Go to Hokkaido, see Shiretoko,
Go to Osaka, see Osaka Castle,
Go to Kagoshima, see Sakurajima,
This land was made for you and me.

4)

Go to _____ eat _____
Go to _____ eat _____
Go to _____ eat _____

5)

Go to _____ see _____
Go to _____ see _____
Go to _____ see _____

(Lyrics by M.Fujiwara, B.Byrd, and C.Aiba)

6. ビンゴゲーム

方角、位置、農産物、名勝を題材にして、ビンゴが楽しめる。日本語の地図があるとよい。まず、児童が県名を書き入れる16マスのビンゴシートを用意する。このシートでは、活動時間に応じて、本州のみ、東北・関東のみというように、自由に県名を選択することができる。

ビンゴを始める前には、ビンゴで使う英語を導入しておく。

Let's play Bingo! (ビンゴをしましょう!)

Are you ready? (用意できましたか。)

One more time, please. (もう一度言ってください。)

Another hint, please. (別のヒントをください。)

One more to Bingo. (あと一つでビンゴ。)

Bingo! (ビンゴになった!)

ゲーム中は、既習パターンの英語を用いて、質問をする。習熟度の低いクラスであっても、教師が質問をし、児童は聞き取ることができれば、十分にゲームを楽しむことができる。習熟度の高いクラスでは、グループの中で児童自身がヒントを出して、聞き取り、ビンゴをすることもできる。

おわりに

このように様々なアクティビティをとおして、児童は楽しく英語を覚えることができる。地理が不得意であった児童にとっても、楽しく県名、農産物、名勝などが覚えられたという声が聞かれ、日本の地理に興味を持つきっかけとなるようである。日本のことをよく知ることで、外国の人にも自信を持って日本のことを伝える素地ができる。

注

- 1) アメリカのフォーク歌手Woody Guthrieが1940年に作詞・作曲した歌。

引用文献

- 池田真 (2013) 「CLILの原理と指導法」『英語教育』 6月号, 10-14. 大修館
- 笹島茂 (編著) (2011) 『CLIL新しい発想の授業-理科や歴史を外国語で教える! ?』 三修社

(ふじわら・まちこ 聖学院大学総合研究所特任講師)

(あいば・ちずこ 東京電機大学情報環境学部講師)